

2) グリーン・ヘルス・ウェルフェア牛肉の生産の技術開発・研究 (技術研究発表会要旨, 1. 平成21年度複合生態フィールド教育研究センター技術発表研究会, III. 資料)

著者	千葉 孝, 二宮 茂
雑誌名	複合生態フィールド教育研究センター報告 = Bulletin of Integrated Field Science Center
巻	26
ページ	80-80
発行年	2010-12
URL	http://hdl.handle.net/10097/50582

2) グリーン・ヘルス・ウェルフェア牛肉の生産の技術開発・研究

環境福祉畜産科 千葉 孝

家畜福祉学（イシイ）寄附講座 二宮 茂

東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター（以下、フィールドセンター）では、肉用種として黒毛和種と日本短角種、約200頭を飼育しており、これらの繁殖・育成・肥育を一貫して行っている。特に日本短角種は放牧、粗飼料多給に適した品種であり、フィールドセンターでは夏山冬里方式における肥育を行っている。具体的には、5月から10月

の間はフィールドセンター内の600haを超える広大な山地放牧草地（標高600m）にウシを上げて飼育し、そして、冬季はウシを畜舎に下ろし、フィールドセンター産デントコーンサイレージと国内産の飼料米ホールクロップサイレージとフスマを組み合わせ、ウシに給与している。ウシの飼育管理に関しては、「日本短角種肥育牛の出生から出荷までの飼育管理に関する行動規範」を作成し、この行動規範に沿って、実施している。また、夏は放牧、冬は畜舎内の飼育ペンのエンリッチメントを行い、ウシのウェルフェアに配慮した飼育管理方法を実践している。

東北大学からの発信

グリーン・ヘルス・ウェルフェア牛肉

コンセプト

日本短角種去勢雄牛を3シーズン放牧し、その後トウモロコシWCS多給により、体重650kgにまで肥育した牛肉。飼料自給率が極めて高く、しかも地球温暖化負荷が低い方式であること（グリーン）、内臓廃棄が無く健康なこと（ヘルス）、ウシの快適性に配慮した飼育であること（ウェルフェア）。

